

研究課題名	ポリコナゾールのトラフ血漿中濃度と年齢および炎症との関係
研究の意義・目的	<p>移植医療や化学療法の進化などにより、日和見感染のリスク要因は増加の一途にあり、予後不良な深在性真菌症の治療はますます重要視されていますが、抗真菌薬はわずか 10 薬剤しかありません。従って、各々の抗真菌活性、体内動態など、各薬剤の特徴を十分に活かした適正な使用は非常に意義があります。</p> <p>今回、深在性真菌症治療薬であるポリコナゾールの投与例について、添付文書通りの投与においても予想外の高いトラフ値を示し副作用を誘発する原因を明らかにするため、トラフ値と、年齢および炎症等による代謝の変化との関係を後方視的に調査し、副作用を防止し、より適正な投与法を明らかにすることを目的とします。”</p>
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2021年12月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	承認後～2020年12月に大阪市立大学医学部附属病院を受診 or 同病院に入院され、ポリコナゾールにより治療され、血中濃度を測定された方
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、検査データ、CT画像、ポリコナゾール血中濃度、投薬歴】</p>
試料・情報の他機関への提供	大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 研究責任者 掛屋 弘
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学</p> <p>(担当者氏名) 山田 康一</p> <p>電話番号：(06) 6645-3784</p> <p>メールアドレス：ocu-ics2013@med.osaka-cu.ac.jp</p>